

# 姫路支部だより

## Contents.

- 1 1月の活動報告  
2月の活動予定  
お知らせ
- 2 環境デザイン研修会レポート
- 4 姫路建築探訪
- 12 新事業「構造学習会」計画書



## 1月の活動報告

- 1.14 (木) ものづくり体験講座 (ものづくり体験館)
- 1.20 (水) 第9回環境デザイン研修会 (姫路建設会館)
- 1.21 (木) ものづくり体験講座 (ものづくり体験館)
- 1.27 (水) 支部理事会 (トリップガーデン)
- 1.28 (木) 第10回建築相談 (姫路市役所)  
ものづくり体験講座 (ものづくり体験館)
- 1.29 (金) ものづくり体験講座 (ものづくり体験館)

## 2月の活動予定

- 2.10 (水) ものづくり体験講座 (ものづくり体験館)
- 2.17 (水) ものづくり体験講座 (ものづくり体験館)  
第9回環境デザイン研修会 (姫路建設会館)
- 2.25 (木) 第11回建築相談 (姫路市役所)

## お知らせ

### ■今後の支部事業予定

- 青年部会研修見学旅行
- 支部親睦事業 グランドゴルフ大会 (3月12日)

### ■姫路支部のロゴマークを作成しました。

このロゴと名刺のデザインは姫路支部理事の藤本 正敏さんに作成を依頼し数多くの案を提案していただき、その中で理事の皆さんと協議の上2案を採用することにいたしました。このデザインはひめじの「ひ」と市のシンボルである白鷺がベースとなっています。後はさまざまな支部の活動の際に利用させていただきます。



デザイン検討の様様



メインロゴマーク



サブロゴマーク

兵庫県建築士会姫路支部  
〒670-6953  
姫路市三条町1-31 姫路建設会館  
TEL: 079-222-7126 FAX: 079-222-7120  
haa-himeji@hyogo.email.ne.jp

兵庫県建築士会姫路支部 理事

**姫路 士会**  
ひめじ しかい

株式会社 ひめじ建築設計事務所  
〒101-0032 兵庫県姫路市〇〇町〇10-701  
TEL: 079-200-0000 FAX: 079-200-0000  
携帯: 090-1234-0000

## 第7回 環境デザイン研修会

日時：平成27年11月25日 20時～22時

場所：姫路建設会館 2階 会議室

出席者：山田、栗原、加藤、黒木、景山【計5名】

## 第8回 環境デザイン研修会

日時：平成27年12月16日 20時～22時

場所：コメダ珈琲店

出席者：山田、加藤、黒木、景山【計4名】

### ◆概要

・河野 仁、西塚幸子 著：播磨平野（姫路）の海陸風の統計的解析 - 海面水温との関係,2006 日本気象学会

### ◆参加者からの話

#### ■播磨平野（姫路）の海陸風の統計的解析 - 海面水温との関係の概要説明

- ・北風を取り入れる。
- ・風を取り入れたプランが、実際どのようにいいのか実感できる機会が必要。
- ・風向きは、気圧配置の影響のほうが大きいのでは。
- ・窓の配置が重要。

#### ■架構計画について

- ・間取りは細かく壁で区切るのではなく、柱の少ない架構計画にする方がいいのでは。
- 将来の間取り変更に対応しやすい。
- ・建てている時に感じる印象や見た目の安定性は、実際の建物の強度に関連があるのでは。
- ・スキップフロアの安全性。
- ・架構はシンプルのほうがいい。

### ◆本の紹介

住まいから寒さ・暑さを取り除く 荒谷 登 著 彰国社(「き組」のパンフレット参照元)

民家の自然エネルギー技術 木村 建一 著 彰国社

建築の大転換 伊藤豊雄、中沢新一 著

資本主義の終焉と歴史の危機 水野和夫 著

### ◆概要

- ・本研修会で学んだ手法や技術を取り込んだ住宅設計の実践  
→山田家の二世帯住宅への改修工事
- ・空き家の活用

### ◆参加者からの話

#### ■山田家の二世帯住宅への改修工事の計画について

- ・北風を取り入れ、南北に風が抜けるようなプランにする。
- ・家の外周部にはバッファゾーン（緑側）を設ける。
- ・床下や屋根には化学系断熱材を配置する。
- ・既存の土壁の外側を外断熱とする。

#### ■空き家（中古住宅）の活用

- ・今後増えていく空き家（中古住宅）の築年数は概ね30年程度。  
→この当時の家の工法を調べ、いかに安く断熱、プラン変更・改修をしていくか。
- ・水回りや仕上げだけの改修は比較的容易にできる（改修後、転売されている）。
- ・改修に費用がかかりすぎると新築と変わらなくなり、メリットが見出せない。

#### ・今後の家の位置づけ

従来：新築し、一生住み続ける。

今後：親の家の近くに家を建てて2世帯住宅のような住まい方もありでは。将来は親の家に移り、子供を自分の家に住ませるか借家にする。そのサイクルを循環させるなど。

- ・若い時に家を建てて一生住み続けるというスタイルは、もう続かないかもしれない。
- ・姫路のローカルな範囲だからこそできること。
- ・中古住宅は、どうやって建てられたか分からないから怖い。中古住宅の性能を調べる時の依頼先が分からない。
- ・新築を追いかけない方法論。
- ・一般の人に、家を建てる時には選択肢がたくさんあることを知ってもらおう（ハウスメーカー、設計事務所+大工、他）。そのことを発信する機会をどう作るか。

#### ■配布資料

松井郁夫 みらいをめざす伝統構法 日本

住宅新聞連載（2015/4/15～9/15 計6回）

【計3名】

# 第9回 環境デザイン研修会

日時：平成28年1月20日 20時～22時

場所：姫路建設会館

出席者：山田、廣瀬、景山【計3名】

## ◆概要

・山田家の二世帯住宅への改修工事に、本研修会で学んだ手法や技術を取り込む計画

## ◆参加者からの話

### ■モデル住宅改修工事の計画について

- ・瓦を葺き替えるか（210万円）？新しくするか（300万円）？
- ・断熱材はカネライトを外断熱で使用する予定（室内は土壁）。
- ・構造計画（足固めの追加）

## 現場における実践の報告

「環境デザイン研修会」のメンバーが手掛ける現場を紹介し、これまで集まって考えてきたことを実践していく過程を報告していきます。

### 事例1：山田家 南のイエと北のイエ

私の実家の改修工事がはじまりました。私たちがこの一年間「環境デザイン研修会」で「播磨の気候・風土に、さらには、播磨に暮らす人々の気質のことを考えた家」を探求してきたことを、いくつか実践できればと考えています。

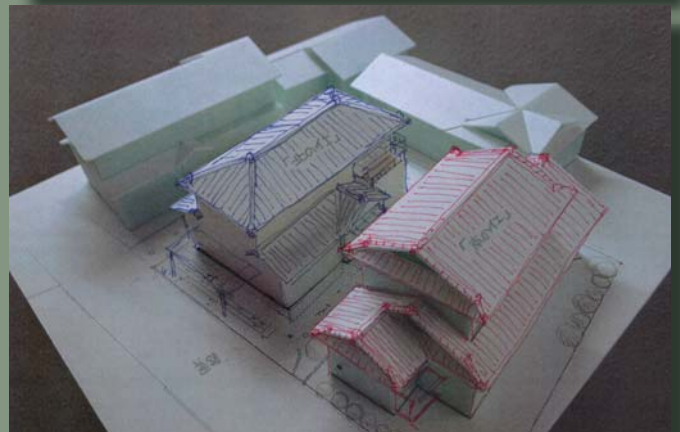
現場の様子を、レポートしていきます。（山田克幸）

る住宅が空き家になり、売りに出ました。隣接する空き家が放置されている状況を思うと不安にもなったので、この土地と建物を購入し、もともとある土地と建物を一体的に考えて改修をすることにしました。32年前に建てた人の手を離れて、その人のための家の役割が終わってしまった住宅を、新たな家族のための家として再び利用します。住宅の寿命を延ばすひとつの方法です。

隣の土地・建物も使えることで計画の中が広がりました。

### 1-2 二つの世帯で二つの家を所有。

隣地の土地と建物を購入することで、結果的に親と子の二つの世帯で二つの家を所有することになりました。この度は、南のイエ（新しく買った家）を親世帯、北のイエ（もともとの実家）を子世帯の家にすることにしました。今後、この二つの家をうまく使いまわしていくことで、世代を超える長い時間、住宅を使い続けていける可能性が高まると考えています。



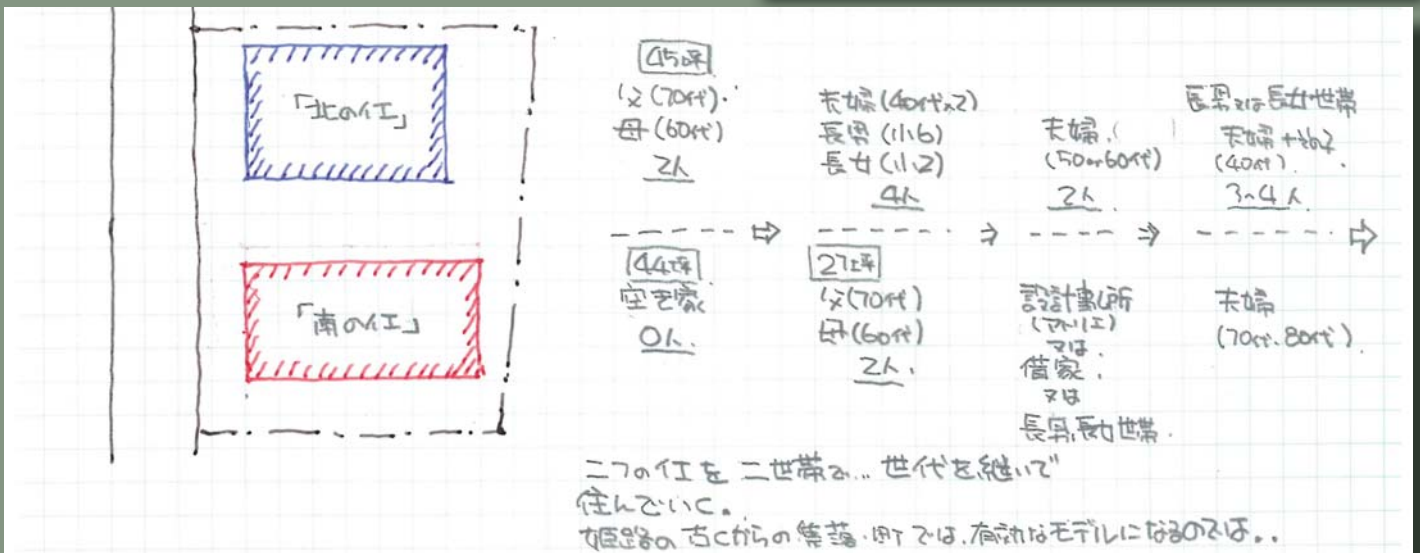
### 1. 家の寿命を延ばす

日本の住宅の平均寿命は30年。国の政策として長期優良住宅を推進するなどの取り組みがされていますが、建物の耐久性を上げるだけでは、十分ではないと思います。

どのように建物を長い時間（自分の時間を超えて）利用していくのかということを考えて行く必要があると考えます。

### 1-1 空き家を活用。

実家の二世帯住宅への改修を検討していたところ、南に隣接す





シロトピア公園内に建つ休憩所。

カーテンウォールでガラス張りの休憩所棟とコンクリート打放しとタイル貼りの便所等が八の字状に対峙して建っている。

その2つの異なる要素を持った建物が円形の池に囲まれ、一体感を出している。



池の中には永廣隆次氏の森をイメージしたモニュメントが設置されています。

休憩室内の椅子は江戸シリーズを踏襲されたもので、素材はアルミを利用し耐久性を考慮されています。

建設当時は「〇億円の公衆便所」と話題になっていたこの建物も竣工してから20年以上が建ち、久しぶりに訪れました。便所内の空調は切られており、自動ドアは空いた状態で、休憩所は時間外だったのか閉められていました。

かなり前から建物を囲む池に水は張られていません。

散歩をしている市民が利用している様で訪れた時も利用者は多かったのですが、今の状況は少し残念に思いました。



竣工 1993年

設計 黒川紀章建築都市設計事務所

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造

規模 地上1階 / 床面積 126.49㎡

姫路市本町68（シロトピア公園内）



写真1 南東より全景

赤レンガの美術館として親しまれている姫路市立美術館は、戦前は陸軍の兵器庫として、戦後は姫路市役所として使われ、1983年の大改修を経て現在の美術館に変わりました。エントランスのある西館は1905年、企画展示室のある西館は1913年に建設され、アーチ型の窓は鉄製の扉が格子に取り替えられましたが、御影石のアクセントは当時の特徴を残しています。また基壇の部分はこげ茶色のレンガが使われていますが、これはレンガを過度に焼いた「焼過煉瓦」で、装飾としてだけでなく、水分が浸透しにくい性質を持っています（写真6）。1983年の大改修のときに西館と北館が繋がりましたが、この増築部分はRC造にレンガタイル張りとなっています（写真3）。



写真2 西館エントランス



写真3 増築による西館と北館の接続部

本館には数万個のレンガが使われていますが、大阪窯業という会社で作られた煉瓦であることが西館の南面の2番目と3番目の柱の間の1個のレンガの刻印から判明したそうです。(平成17年美術館だより88号より)(写真5)。

当館のレンガ積石は長方形のレンガを1段ごとに交互に方向を90度変える「イギリス積み」となっており、芋目地となりやすい「フランス積み」に比べ堅牢であると言われています(写真4)。わが国のレンガ造建築は明治開国以降、関東大震災に至るわずか60年に建てられたものだけであり、耐火性は高いが地震に弱く、広い窓が取れない開放感の無い建物は残念ながらわが国には定着しませんでした。

陸軍の各師団により当館と非常に似たレンガ造りの倉庫が全国にいくつか建てられましたが、どの倉庫も2階建ての切妻屋根で、小屋組みは木造クイーンポストトラスで、梁間が8間で中央2間が通路となっており、標準設計図が存在していたようです。当館のほかに現存する陸軍の兵器庫は石川県(現石川県立歴史博物館)、香川県(善通寺市)、広島(現広島大学医学資料館)があり、機会があれば姫路市立美術館と比べてみたいと思います。

当館の建物は2003年国の登録有形文化財に認定されています。



写真4 西館南の搬入口



写真5 大阪窯業の丸い刻印



写真6 窓周り・柱のディテール



写真7 エントランスホール正面

名 称：八徳山八葉寺（はっとくさんはちようじ）

所在地：姫路市香寺町相坂 1066



本堂



奥之院



袴腰鐘楼

【概 要】

天平8年(736年)に行基の開創と伝えられる古刹。平安中期に「日本往生極楽記」を著した慶滋保胤が出家して寂心と名乗り、堂舎を建てたことで知られる天台宗の寺院です。

寂心は書写山円教寺を開いた性空上人と親交があつく、寂心が沐浴する湯釜が欲しいと思っていたところ、ある日、それと察した性空上人から湯釜が届けられたという逸話が残っています。

その湯釜は現在も本堂奥の奥の院に安置されています。

本尊は十一面観音、奥の院は鎌倉時代、奥の院厨子は室町時代のものであるとされ、県指定文化財に指定されています。





苔の佇まい



鬼瓦



隅蓋

### 【感想】

『古建築』というと、どうしても神社仏閣の類の紹介となってしまうので毎回頭を痛めている。

そんな、モヤモヤな気持ちを持ちながら香寺町の『八徳山八葉寺』にお邪魔しました。

が、苔の綺麗な坂道が目飛び込むとそんなモヤモヤはどこへやら？本殿のある境内に続く階段を登ると、目の前に現れる池とそれに架かる石の橋、その先には小さなお堂（弁天堂）がそれらを前に、後ろには堂々とした本堂が姿を現す。

「自然の中にある雰囲気や本堂のたたずまいなどが作品にぴったり」という理由で

この寺はNHKの2013年度下半期放送の朝の連続テレビ小説『ごちそうさん』のクランクインのロケ地となり。

「立派な境内、生い茂る木々などイメージにぴったり」と番組チーフプロデューサーも評価しているとのこと。

まさにこの二つの言葉通りのお寺である。

ただ、残念なことこの本堂は建築年数は50年程である為に古建築ではない……。

なので本堂を後にして今回の目的である鎌倉時代に建立された『奥之院』に向かう為に坂道を下っていく。

見学に行く建築物は事前に少し資料を見ていくのだが、この『奥之院』をインターネットで画像検索すると木立の坂道から見える奥ゆかしい建物の画像が出てきた。こういう写真が撮りたい！

と思ったということは、画像で見る限りこの建物は美人さんである。少し期待をして実物と御対面！

ん～、床から下は補修されているのか少し新しく見える、そして礎石と柱、束の位置が微妙にズレている。

また、床から下の部分と少し上の部分の木部が防腐剤が塗布されている為か変色しているし、

正面にはキラリと光る取っ手……

でもね、すごい美人さんというわけではないが、こじんまりとした愛嬌のある雰囲気の良い建物なんですよ！

特に 木鼻(?)部分の装飾は龍?麒麟?何かの動物なのだがものすごくユーモラスな顔!思わず皆で笑った!

小さい建築物なので、短時間の見学で普通の感想になってしまった。(ボキャブラリーの無さに涙が出る…)

しかし、この境内は写真では分かりづらいと思いますが、ものすごく手入れされている上に、下の方に目線を落とすと苔が必ず視界入ってくるのです。写真を撮るときにベストポジションを確保すると足元には綺麗な苔があるのですごく気を使うくらい苔が至る所に生えておりこの寺の佇まいをすごく良いものとしている。

他にも、『袴腰鐘楼』、『御朱印蔵の飾り瓦』など見るところは多く飽きることの無い境内である。

古建築を見に行こうって何だが、このお寺は周囲の自然をも取り込んで全体で居心地の良い空間を

楽しんだ(表現おかしくないか?)方がよいと思う。こんな良いところがあったとは!

身体は冷え切っていたが、心は ほっこり ちょっと暖かい気分で帰路についたのであった。

追記:この境内の下に『塔頭妙勝院』というお寺があります。このお寺も立派なお寺で、門が開いていたので見学させていただいた。(また前回の様にアラームが鳴っちゃいましたけどね 笑)

このお寺の犬走りにはたぶん両寺に使用されていたであろう鬼瓦が結構な数、並べられています。

それも見所?!

次回はこれが古建築と言えるのか?という問題作?を紹介する予定です!(やっぱりダメかなあ…)

平成27年7月15日

西嶋 宣久

## 1. 事業の目的

姫路には城下町として古くから栄え文化財級の古建築が多く存在する。また、産業として栄えた遺構として、近代化遺産が点在する。そして、著名建築家による現代建築も建てられている。姫路全体を俯瞰したとき、それらを総合的に網羅した建築作品を紹介する文献が現在存在していない。私たちは、それを建築士という専門家の視点から現場へいき、感じたことを記録に残すことにより、広く全国の建築家、建築を志している若者、あるいは建築に関心の在る国民、外国の方々に広く公開することで、平成のこの時代時点で切り取られた姫路建築遺産の魅力を発信しようとするものである。

これは、調査に携わった建築士が肌で感じ取った思いを記録に残すことにより、建築眼を養い、さらに評価書を作成することで建築知識・表現力のスキルを向上することも狙いとしている

## 2. 事業の手法

姫路市内に在る建築物を建築士が現地へ行き、全体写真を取り、その場で感じ取った建築作品に対する特筆すべき優れた点や特徴を記録する。

その作品紹介書を集めてゆき、最終的には市内の建物を俯瞰的に網羅した建築作品案内書を作成する。支部60周年の記念誌に掲載し、またグーグルマップ等のように、インターネット上でその地点をポイントすればその写真と解説書がポップアップするようなことを可能にすることを展開することも視野に入れている。

建物は、大きく分けて次の3分野に分類して記録する。

- ①古建築 国宝・重要文化財・江戸期までの優れた建築物
- ②近代建築・土木遺産 明治・大正・昭和初期に築造された遺構
- ③現代建築 著名建築家による建築作品

①においては、今までにその類の書籍は出版されているが、近年の状況を総合的に反映したものがなく現在どのように活用されているか、さらに見所のポイントのみを表記したものを作るものである。

②これは、現在では存在そのものが危惧されているものもある。今この時には現存していたというその記録を残すという意味も込められている重要な調査である。

③「有名建築その後」優れた建築家の作品が竣工後実際どのような姿をみせ活用されているのを調べる、これからの建築そのものを考える上で興味深い取材である。

これは、姫路観光ガイドを作成するためのものではない。私たちの活動の場となっている地域の文化的所産を捉えることによって、新たにどんな作品を作り出そうとするのか「建築」の意味を問い直す作業である。

以上

(上記書面は、調査にご協力をお願いする為に、官公庁や関係諸団体の方にお渡したものです。)

# 取材建築作品一覧 H27.6. ~ 12.

① 姫路市書写の里 美術工芸館



⑦ 壺坂酒造株式会社



⑩ 姫路中央保健センター



② 姫路城



③ 姫路市水道資料館 水の館



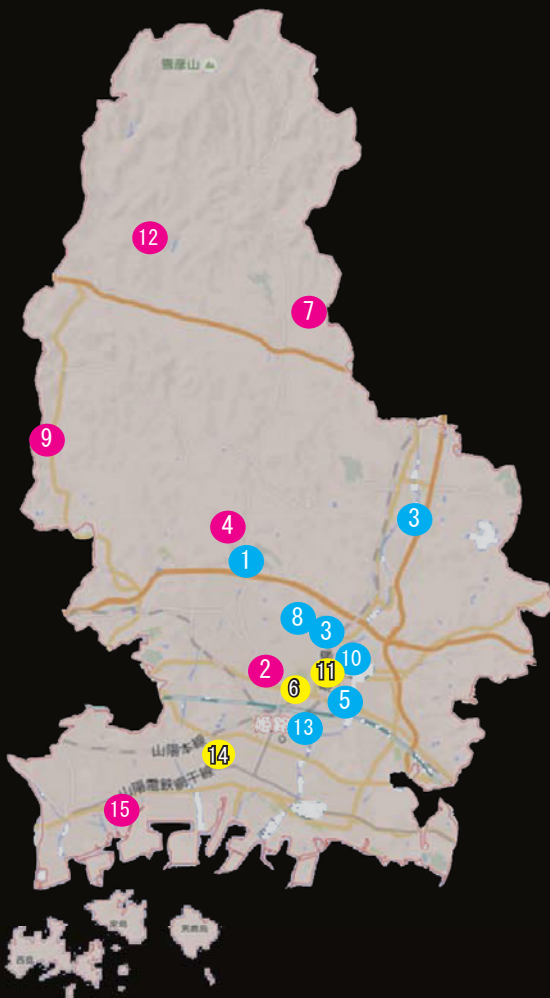
④ 書寫山 圓教寺



⑤ ものづくり体験館



⑥ ヤマトヤシキ姫路店



⑪ 旧逓信省姫路電信局



⑫ 古井家住宅「千年家」



⑬ 御座候あずきミュージアム



⑧ 兵庫県立歴史博物館



⑭ 京見会館



⑨ 三木家住宅



⑮ 旧山本家住宅



先月号に事業計画を掲載しましたところ、問い合わせがございましたので、その内容を反映した計画書です。  
赤字部分が追記・変更内容です。

## 事業計画書

耐震設計偽装事件以降、適合性判定制度や構造設計一級建築士の創設など、構造に関する法律上のフィルターは整備されてきましたが、意匠設計をはじめとする建築士全体の構造に対するレベルアップは残念ながら図られていないのが現状です。

最大の理由は「勉強する機会がない」「教える人がいない」からではないでしょうか？そしてその原因として建築基準法が非常に複雑（継ぎはぎ継ぎ足し）である点、構造計算ソフトに頼っていて分かり難い点などが挙げられ、構造関係技術基準と実践の両面から体系だててわかりやすく説明できる人が少ないからではないかと考えます。

今回そのような状況を鑑み、建築士の最も重要な責任である「人命を守る安全な建物の設計・監理」という原点に戻り、建築構造学を楽しく基礎から学習しなおしていく機会を建築士会で設けたいと思います。講師は、当支部会員である(株)兵庫確認検査機構の構造設計一級建築士の景山氏にお願いしており、より実践に即した講座になると期待しております。

### 平成28年度カリキュラム(案)

|       |     |                              |
|-------|-----|------------------------------|
| 第1回目  | 4月  | 建築構造の基礎(構造力学・用語解説)           |
| 第2回目  | 5月  | 建築構造の基礎(断面の性質と応力)            |
| 第3回目  | 6月  | 構造関係規定の構成と構造計算ルート            |
| 第4回目  | 7月  | 許容応力度計算と材料強度                 |
| 第5回目  | 8月  | 保有水平耐力とは                     |
| 第6回目  | 9月  | 鉄骨構造(広告塔)                    |
| 第7回目  | 10月 | 鉄骨構造                         |
| 第8回目  | 11月 | 木構造                          |
| 第9回目  | 12月 | 木構造                          |
| 第10回目 | 1月  | RC造                          |
| 第11回目 | 2月  | RC造                          |
| 第12回目 | 3月  | 杭の設計・擁壁の設計。構造図・計算書の読み取り方、その他 |

- 対象者 : 1級建築士、2級建築士で構造の知識を深めたい方
- テキスト : 2015年版建築物の構造関係技術基準解説書(通称黄色本)  
よくわかる構造力学の基本(松本慎也著)  
初めての建築構造設計(学芸出版社)等を考えております
- 日時 : 午後 8時~10時(時間は2時間で途中休憩有り)
- 場所 : 姫路建設会館(未定)
- 講師 : (株)兵庫確認検査機構 景山氏他
- 費用 : 会員 500円/1回 会員外 1000円/1回  
(継続して学習していただく内容のため、6000円/年(会員) 12000円/年(会員外)を一括支払いとさせていただきます。)
- その他 : ①カリキュラムやスケジュールは変更の可能性があります  
②毎回演習を行う予定です(手計算レベルですので、電卓を持参ください)  
③開催曜日が確定しましたら、メール等で別途お知らせいたします  
④積み上げ学習形式の為、継続参加が理想ですが、単回参加も可能です。

※参加申し込みなど、この件についてのお問い合わせは、事業担当:姫路支部 石原まで